

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後デイサービス るぼろ太田		
○保護者評価実施期間	令和7年5月7日 ～ 令和7年6月14日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	令和7年5月7日 ～ 令和7年5月30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年7月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者と顔を合わせる機会が多く、密に情報共有をすることで、一緒に課題を確認しやすい。	利用終了後に時間を取ってこどもの引継ぎをするともに、連絡ノートでの質問や近況について話をするようにしている。また、必要に応じて研修会の企画に繋げている。	今後も保護者やこども達の思い・意見を丁寧に聞き取りながら、個別支援計画に結びつけ、日々の支援に取り入れていく。
2	こども達の主体性を尊重し、やりたいと思うことを一緒に準備するところから行い、日々の暮らしに繋がる活動を保障できている。	自分で決めたことを実現できるように、また最後までやり遂げることができるように、職員は補佐役に徹しながら、こどもの力を引き出す支援を行っている。	個別対応の利点を最大限に活かし、こどもの失敗経験も次に活かせるよう、個々に必要な支援方法を職員全体で検討し実践していく。
3	同法人のこども発達さぼーとセンターるぼろ、相談支援事業所あゆとと連携し、家庭や学校、地域でこどもの様子を知ることができる。	ケース会議や担当会議、日々の連絡等で情報共有を行い、放課後デイだけでなく生活全般を視野に入れた支援を行っている。	小学校から中学校、支援学校等への進学やサービス移行後も継続して連携を図っていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の構造上、活動的に動くスペースが少ない。	活動室と運動室に分けているが、運動室にトランポリンやランニングマシン等の運動器具を設置しているため、十分に動ける活動が保障できていない。	活動的な遊びについては地域の公園等に出かけたり、地域の情報を得ながら公共の場（児童センター・図書館・体育館等）に出かけたりして、利用の仕方を学ぶ機会とする。
2	利用回数が月2回、週1のこどもが多いため、欠席続くと、継続した支援の積み重ねが難しい。	利用希望者が多く、また他の事業所と併用しているこどももあるため、利用日を増やすことが困難である。	事前欠席者がいる場合、希望者に追加利用を声かけ、可能な範囲で回数を確保していく。
3	送迎の要望に十分対応できていない。	送迎範囲が広すぎると到着までに時間がかかり、活動時間が保障できないため、迎えは町内小学校に限定している。また、保護者との情報共有を大切にするため、利用終了時は事業所まで来てもらうので送りは実施していない。	送迎ニーズを捉え、応えることができるよう方策を具体化させる。